

四 研究の全体構想（資料1）

五 研究の実際

(1) T・Tの指導について

本校のT・Tは「T・T担当の単元渡り歩きシステム」による全校体制の取り組みであり、日常的にT・Tの授業が行われていることや、どちらかの教師がチーフ・サブといった位置付けはせず、授業全体に同等に責任を持って授業づくりに取り組んでいることなどが特色である。

(2) T・T指導体制の確立

学力検査などから研究領域を決め、それらを中心に各学年のT・T指導単元を計画した。

- T・T担当については、一・三・五年が研修主任、二・四・六年がパソコン担当とし、単元を渡り歩く形で全学年・全学級で年間三〜四単元のT・Tの授業が行えるようにした。

○ 全学年の算数の時間を二〜四校時に固定し、打ち合わせの時間も時間割に位置づけた（日常的なT・Tにより教師の息があつてくると、単元始めの十分な打ち合わせの時間の他は、わずかな時間ですむようになる）

(2) 実際の授業づくりについて

○ T・T担当が教材研究を深め単元の観点別評価目標や各単位の時間・基礎的・基本的内容を明確にした上で、子供の側に立つて単元を再構成したり、T・Tの形態・役割分担を考慮したりして単元

資料2 単元の指導計画例（第1学年「かたちあそび」）

時間	ねらい	基礎的・基本的な事項	T・Tの内容	主な評価
1	集めてきた箱や積み木など、いろいろな形を積み上げてみる。その形を工夫して、いろいろな形を作ってみる。	● 形の特徴を生かして、いろいろな形を作ること。 ● 立体が積りやすさや安定性	T1・T2 問題提示 T1・T2 分担して自力解決の支援 T2 T1 T2 全体把握 T1 T1 T2 全体把握 T1 T2 個別指導	● 立体図形の特徴や機能を生かして、いろいろな形を構成すること。 ● 積りやすさや安定性を指し示すこと。
2	身の回りや身のまわりの立体の形の特徴や機能について、仲間分けすること。	● 色や形に関係なく立体の特徴を見分けること。 ● 「はこの形」「一つの形」「ボールの形」などの用語	T1 問題提示 T1・T2 分担して自力解決の支援 T2 T1 T2 全体把握 T1 T1 T2 全体把握 T1 T2 個別指導	● 立体図形の特徴や機能を生かして、仲間分けすること。 ● 「はこの形」「一つの形」など、この形で見つけること。

資料3 問題解決学習の流れにそったT・Tの基本的指導過程

段階	必要とされる問題解決能力	T・Tによる主な支援	評価
問題の理解	① 問題場面を読み取る。 ② 課題をつかむ。 ● 似た問題を想起する。 ● 今までの学習との違いに気づく。 ● おおよその予想を立てる。	○ 問題を提示し意味や場面をつかませる。 (例) T1(T2)問題の提示 T2(T1)全体把握・個別指導 T1・T2問題の提示(役割演技など) ○ 既習事項を想起させる。 (例) T1(T2)話合いの進行 T2(T1)個別指導	● 課題がわかったか。
計画	③ 既習事項をもとに解決の方法を見つけ出す。 ● 絵、図、表等で関係を探る ● 小さい数になおして考える ● 単位をなおしてみる ④ 解決するための順序を組み立てる。 ⑤ 2通り程度の解決の方法を考える。	○ 解決の見通しが持てるよう支援する。 (例) T1(T2)話合いの進行 T2(T1)全体把握・個別指導 T1(T2)全体把握 T2(T1)小集団指導・個別指導	● 自分なりの解決の見通しが持てたか。

○ 学年との打ち合わせにより指導計画を修正し、子供たちの主体的な学習活動をうながす問題解決学習の流れにそったT・Tの基本的な指導過程（資料3）を基に授業を展開する。（役割分担については固定せず、単元の中で交代できるように計画し、各教師の個性を生かして授業をつ

くつていく。）

○ 単元をとおしてT・Tにより個を見取り、共感・賞賛・支援していく。

(2) 実践例

○ これまでの二十の授業実践の中からT・Tの三つの形態についての実践例を紹介する。

① 考えの多様さや学習進度に応じるT・T

第三学年「円と球」（1/8時）
「玉入れゲームで、全員が中心から等距離に立つてできる形を調べ、活動を通してT・Tにより支援し、円と球の概念・性質や円の美しさに気づかせていく授業」



体育館で全員で円を作り出す活動